

002 富良野岳

● 9月10日(火) 富良野岳往復 天気・晴

・5時前に起床。外は快晴だ！
食堂には誰もいない。みんな山へ行かないのか？
朝食を摂りトイレを済ませて5時過ぎに十勝岳温泉に向けて出発した。6時前に富良野岳登山口の凌雲荘前駐車場に着いたが、すでに数台の車が止まっていて3パーティーが登山の準備をしていた。私も急いで準備を整え6時10分に出発した。



・眼前には富良野岳が美しく聳えている。
すぐ目の前なので真っすぐ登れば短時間で登れそうだが、道はぐるっと回り道して登ってゆかなければならぬ。この道は何回歩いたことだろうか。歩きなれた道である。沢沿いに約30分歩いてから沢を渡り登山道に入る。登山道といってもトラバースの道なので傾斜は殆ど無くひたすら歩く。木々の紅葉はまだ殆ど見られないが、ナナカマドの赤い実が青空をバックに美しく輝いている。



・しばらく歩くと上ホロカメットク山への道との分岐に到着。ここから本格的な登りになる。夏はいろいろな花が咲いていて目を楽しませてくれ、疲れを癒してくれるが、秋のこの時期は花が少ない。

それでも道端には秋の花リンドウが咲き、シラタマノキは真っ白な丸い実を付け、チングルマが種の綿毛を風に靡かせている。



・遅咲きか咲き遅れなのかウサギギクやマルバシモツケ、チングルマ、キキョウ、チシマフーロなどが咲いていて、やはり花の豊富な山だと感心する。写真を撮りながらのんびりと歩き縦走路の尾根に9時前に出た。ここは上ホロカメットク山へ行く尾根道で十勝岳、美瑛岳、オプタテシケ山と通ってトムラウシ山へと続く縦走路である。いつもの夏なら大勢の登山客で一杯な所だが、今日は誰もいない。シーズンオフを感じさせられた。



ウサギギク

・登り始めた時は快晴だった空に雲が湧きだしてきて、時々十勝岳方面の視界を遮りだした。山頂まではあと30分ちょっと。途中下りてくる人と会ったが、これから上ホロカメットク山へ回って下山するという。元気な人だな。

・9時半に山頂に着いたが、山頂に居たのは3人パーティーの一組だけ。彼らもすぐに下山していったので、山頂には私一人となり、この山頂を30分以上も私一人で独占することとなった。残念ながらこの山頂は晴れているのだが、まわりに雲が出てきて、時折十勝岳が雲の切れ目から顔を出すか、遠くはみんな雲に隠れてしまった。



富良野岳山頂



山頂から十勝岳方面の展望

・そろそろ下ろうかと思ったら小柄で地下足袋のおじさんが一人で登ってきた。旭川の人だといい、北海道の山は隅々まで登っていて、ほとんどが日帰りという。服装はとにかく地下足袋と小さなリュックだけ。だが名も無い山の道なき道を歩くので、ロープやカラビナなどの安全装備は万全だと。一日10時間くらいは平気で歩いているという。今日はたまたまこの辺に来て天気が良かったので富良野岳へ登ってみたそうだ。下ろうと思ったらそんな人と出会って山の話が弾み、約1時間も山頂に居ることとなった。その間他には誰も登って来なかった。

・地下足袋の小柄なおじさんに「お先に」と云って下山を始めた。雲が出て眺望は効かないが天気は良い。のんびりと花の写真を撮りながら下っていたら、さっきの地下足袋のおじさんが下ってきてあっさり私を抜いていった。

・凌雲荘前駐車場には12時50分に到着。偶然にも私の車の隣に先ほどの地下足袋の小柄なおじさんのパジェロが止まっていて、服装を着替えていた。見違えるようにすっきりとした小柄のおじさんになっていたの、最初はわからなかった。おじさんの方から声をかけて来て、「日帰り登山」というホームページ (<http://nocchan.na.coocan.jp>) を持っている、名刺を頂いた。その名刺はホームページのURLだけで、個人の名前も住所も何も書いていない。しばらくの間北海道の山の話のいろいろ聞かせていただいた。(帰ってからそのホームページを覗いてみたら、なんとなんと、北海道の山がいっぱいで、名山は当然ながら、聞いたこともどこにあるのかも知らない山がずらっと列記されていた。全てコースと解説付き。大した人だ)

「明日は十勝岳山頂でご来光を見るので、明朝2時ごろから登り始める」と云って愛車パジェロで下って行った。空はすっかり雲に覆われて、今にも雨が降りそうな気配になってきた。



・タブレットで天気予報を見たら、明日は天気が良いが明後日は悪いという。明日は移動日で明後日斜里岳に登る予定だったが、明日美瑛岳に登り明後日移動して雌阿寒岳を目指すという大幅な計画変更を行った。そうなる tonight も白銀荘泊まり、夕食の用意をしなければならない。ということで一日延期分の食料を購入しなければならず上富良野へ下った。セイコーマートで今夜、明朝の食材と、明日の美瑛岳での昼食を購入して白銀荘へ戻った。案の定天気が悪くなり上富良野への買い物の途中大雨に降られたが白銀荘に戻ったころには雨も上がり天気の回復がみられた。

・ゆっくりと温泉で疲れを癒して5時過ぎから食堂で夕食を開始。隣に札幌在住で勤労者山岳連盟北海道の役員だというおじさんが座り、いろいろ話をした。生まれは昭和16年1月で私と同じ学年だ。学生時代は東京の大学で(どこだか?)山岳部にいて活動していたという。同じ時期に山を歩いていたということで、横長のかいキスリングのことや有名な23時55分新宿発の中央線列車のことなど、懐かしい昔話に花が咲いた。

明日急遽登ることにした「美瑛岳」を夢見て8時にベッドにもぐりこんだ。